

## 民主島根

2017年  
9.17  
第1296号発行所 松江市袖師町3-6  
日本共産党島根県委員会TEL 0852-24-2444  
FAX 0852-24-6369

大平衆議院議員、垣内比例、岩田島根1区、隠岐キャラバン

## 島の暮らし・経済支える政治を

## 3町長、農協・漁協と懇談、宣伝、集いも

日本共産党の大平喜信衆院議員と垣内京美衆院中国比例予定候補は8月31日から9月1日まで離島の隠岐島を訪れ、隠岐の島町、海士町、西ノ島町の3町長との懇談や宣伝、集いに参加しました。

岩田たけし衆院島根1区予定候補、村上三三郎隠岐の島町議が同行しました。

隠岐の島町で  
懇談・集い

池田高世偉町長は、4月

に施行された有人国境離島法にふれ、「島民がフェリーに乗る運賃が減額になり、喜んでいいる。減額の対象を島外の方にも広げてもいい、島に人を呼び、地元経済の活性化につなげたい」と語りました。

大平氏は「法には見直し規定があり、お聞きした町民の声を届け、改善させていきたい」と応じました。

垣内氏は「本土以上に困難

を抱える離島の皆さんの暮らしや島の経済を支える政治への転換を進めていきたい」と述べました。

大平氏は地元漁協、農協ともそれぞれ懇談し、夜には隠岐支部主催の集いに参加しました。

## 4カ所で街頭宣伝

大平氏らは、住宅街など4カ所で演説し、北朝鮮のミサイル発射に対し、「アメリカも含めた国際社会が外交的解決に努力している中、それに逆行する行為で断じて許されない」と

海士、西ノ島でも  
町長と懇談

海士町の山内道雄町長、西ノ島町の升谷健町長ともそれぞれ懇談しました。

海士町の山内町長は「『ないものはない』とい



池田町長（右手前）と懇談する（左から）大平、垣内、岩田の各氏ら 8月31日



山内町長（左）の話を聞く（右）大平、垣内、岩田氏ら 11日



## 尾村・大國県議「県政だより」完成



日本共産党の尾村利成、大國陽介両県議の「県政だより」（2017年秋号）がこのほど完成しました。（写真）

B4サイズ・片面

フルカラーの両面仕様となりました。ご覧になりたい方は党東部地区、中部地区委員会までお気軽にお問い合わせください。



日本共産党の岩田たけし衆院島根1区予定候補を招き、「おしゃべり会」を開きました。（写真）

岩田氏は党綱領に基づき、安倍政権のアメリカいいなり、大企業優先の「2つの歪み」について語り、住民目線を変える会・山陰の福島浩彦共同代表からの戦争法や憲法、原発などの質問に丁寧に答えました。

うスローガンの下、島にあるものを活かそうと頑張ってきた。自身の給与カットなどでつくった財源で子育て支援の充実も進めてきた」と話しました。

また、西ノ島町の升谷町長は「空き家対策を進め、公営住宅も毎年、造ってきた。漁業や畜産に

新規に取り組む人には初期投資に500万円を上限に補助している」などと紹介。

大平氏は「中山間地で起きている共通課題の打開に向けて、皆さんの取り組みを他の地域に是非とも知らせたい」と応じました。

## 鼓動

暑かった夏もようやく終わり、朝晩ひんやりと秋めいてきた。この夏、8月6日に数年ぶりに原水爆禁止世界大会・広島へ行ってきた理由の一つは、人類史上初めて核兵器を違法化した「核兵器禁止条約」が採択されたこと、もう一つは、広島市中区のバー「スワロウテイル」で毎月6日、被爆者の証言を聞く会を11年に渡り開いてきたマスター、富恵洋次郎さんが7月3日、肺がんにより37歳の若さで亡くなったことを新聞紙上で目にしたことだった▼富恵さんは広島市西区生まれで、祖母が被爆3世。高校卒業後、20歳で独立し、薬研堀でバーを経営してきた。証言を聞く「原爆の語り部の会」を始めたのは2006年2月。バーの客からの原爆についての質問に答えられず、自ら学ぶ場を設けようと思ったのがきっかけだった▼「人生の大先輩に話を聞くような感覚。きっかけは原爆かもしれないけど、その人の人生を知りたい」と、漫画「はだしのゲン」の作者、故・中沢啓治さんら約100人の被爆者を招いた。「次の世代に引き継げるかどうかはどれだけ僕たちが聞けるにかかっている」と▼7月18日発売された「カウンター」の向こうの8月6日、広島バスワロウテイル「語り部の会」の4000日（光文社）の出版にあたって、富恵さんは闘病中、編集担当者にメッセージを寄せた。「（中略）被爆者の方たちが創ったこの日本で、どれだけ平和に生きているか。（中略）それを少しでも感じられれば良いと思う」。「語り部の会」はこれからも富恵さんの仲間によって引き継がれている。（遠）

## 島根・広島 北朝鮮ミサイル発射予告

### 竹下 暴言許せない 新婦人県本部が嚴重に抗議



自民党の竹下亘総務会長が島根県上空を通過するとして北朝鮮の弾道ミサイル計画を巡り、「島根に落ちて何の意味もない」と発言した問題で、新婦人県本部は5

日、出雲市にある同氏の地元事務所を訪れて抗議文を提出し、発言を撤回するよう求めました。(写真) 山崎泰子会長は「島根県で平和に暮らし、安心して子どもを育てたいと願う女性たちにとって、県民の命を軽視しているとは思えない」と厳しく批判。「何より私たちが恐れているのは、島根には原発があることです」と、攻撃の標的にされかねないことを指摘し、軍事衝突を絶対に起こさず、対話による解決を追求するよう訴えました。

## 地域の話題

### 江 被爆体験を聞く 大平衆院議員ら

日本共産党の大平喜信衆院議員は8月30日、松江市で開かれた「被爆体験を聞く集い」に参加し、被爆体験を語る活動をしている西尾幸子さん(85)から当時の話を聞きました。

西尾さんは原爆が投下された1945年、広島市の広島第一高等女学校に通っていました。母から「必ず広島はやられる。田舎に行きなさい」と現・島根県安来市の母の実家に行かされ、生き残ることができました。西尾さんは当時の生活や友達との会話を振り返り、「亡くなった同級生のお母さん

### 奥出雲 公契約条例制定を 川西議員が要求

から「なぜあなたは生きているんだ」と言われて本当に辛かった」と切々と訴え。「憲法だけは守らねば。命をかけて頑張りたい」と決意を語りました。

川西議員「公契約は、公的業務を民間に発注し、行政目的遂行のため締結します。例えば、保育士は低賃金、長時間労働など劣悪な労働条件、非正規雇用への不満を理由とする退職、人員不足などにより、園児や保護者に大きな影響を及ぼしています。公契約条例の制定により、地場産業の活性化と賃金引上げにもつながり、地元企

業や団体、働く町民が元来な地域になる。公契約条例を制定すべき。

町長「公契約は雇用を安定させる効果はあるが、県内の自治体で「ない」ので制定はしない。(奥出雲町民報)より」

### 江 津 「風の国」利用料金 1.5倍の値上げも

9月議会には「風の国」の料金を1.5倍も値上げする条例案が提案されます。風の館での宿泊は和洋室1人「1万円以下」だったのが「2万5千円以下」となっています。政府は「景気は緩やかな回復基調にある」としているものの、庶民には全く実感のない経済情勢の中で、料金値上げを可能とする条例案が風の国の経営改善に資するものとなるのか大いに疑問です。(「いつつ民報」より)

## 社会を変える希望みつけよう

### 民青県委 党綱領を学ぶ会ひらく



民青同盟県委員会は3日、日本共産党の後藤勝彦県委員長を講師に「党綱領を学ぶ会」を松江市で開き、青年12人が参加しました。(写真) 学習会は、新しい同盟員が加わったため、改めて党綱領を学んで社会を変革する希望を見つけようと企画

対応した秘書は「みなさんの声を本人にしっかりと伝えます。それだけは約束します」と答えました。

## 風力発電 豊かな自然壊す

### 広島・北広島町で調査・懇談

先日、北広島町の旧芸北町地域に伺いました。全国でも有数の湿原地帯で、希少野生動植物が生息する自然豊かな地域でもある八幡高原は、大佐山や鷹ノ

今そこに、高さ150メートルの巨大な風力発電を17機建設する計画がねらわれています。

衆議院議員

## 大平よしのぶ



この日は「八幡高原の景観と環境をまもる会」の高木茂事務局長にお話を伺いました。「百害あって一利なし。芸北地域の住民は全員反対している。なんとしても阻止したい」と。この事業に対する「環境大臣意見」も、「鳥類、植物、生態系、景観、人と自然との触れ合いの活動の場等に対する重大な影響が懸念される」と厳しく指摘しています。

風がたいへん強く吹く地域で、一度造れば毎年約100億円の収益が上がるのと試算も。環境破壊や景観をないがしろに、利益を追求する計画は、絶対に認めるわけにはいきません。もちろん、再生可能エネルギーの導入は、温暖化抑制のためにも喫緊の課題であり、一層の推進が求められています。だからこそ、利益追求を優先した乱開発ではなく、あくまでもその地域の環境維持と地域経済への貢献にふさわしいものとしなければなりません。

高原を少し下ると、そこには数少ない国が設置した騒音測定器が。米軍機の低空飛行訓練が激しくおこなわれており、住民の怒りとたかいたが設置されました。 T P P と日欧 E P A の推進による農村崩壊と自給率低下をもたらす企ても含めて、北広島町は大企業優遇政治とアメリカいなり外交という自民党政治の害悪がまさに集中した地域だと改めて痛感させられました。



この日、最後に伺ったのは、元町会議員で県の集落営農組織の会長も務めておられる亀岡章治さん。「政治を変えんとどうしようもない、もう共産党しかありません」とがっちり握手を。長年、自民党を支えてきた農村からも、大きな反響と共同の広がり力が強く始まっています。(写真は、懇談する大平氏 8月27日、北広島町)

されました。 後藤氏は冒頭、「科学的社会主義や党綱領を学ぶことは、ただ知識として身に付けるだけでなく、今の社会政治をどうすれば変えられるのか、私たちが主人公として取り組むことにつながります」と強調。その上で「今、日本の政治は戦後初めて『野党と市民の共闘』という未踏の領域に踏み出しています。綱領をしっかりと学び、より良い社会を共につくりましょう」と呼びかけました。

## 中国 基地問題を考えるシンポジウム

10月7日(土) 13:00~16:30

広島YMCA国際文化センター大会議室

●報告: 沖縄からの報告 (比嘉瑞己沖縄県議) 国会報告 (大平喜信衆院議員)

●現地レポート: 岩国・呉・日本原、低空飛行

主催: 日本共産党国会議員団 中国ブロック事務所